大人には分かりづらい子どもの世界。教育の専門家が４回シリーズで今どきの子ども事情をひも解きます。今回は島さんの最終回です。

大人に見えない子どもの世界 Vol.16

今月のテーマ

もしも、わが子が「うそ」をついたら…

幼稚園に通うくらいの年齢になると、子どもは「うそ」をつくようになります。「わが子がうそをついた」なんて聞いたらショックを受けてしまうかもしれませんが、「発達」という観点で見ると、実はすごいことが起こっているのです。

うそをつくためには「相手は自分が知っていることを知らない」ということを理解し、本当のことを言うのを我慢して、本当とは違うことを言うことができなければいけません。

こうした能力は４歳ごろに発達します。３歳までの子どもは相手の気持ちを考えて行動することも、自分がしたいことを我慢することもできません。だからこの時期までの子どもには「お母さんは片付けをしてほしい」ということを理解させたり、おもちゃで遊びたい気持ちを抑えさせたりするよりも、子ども自身が「片付けをしたい」と思わせることが重要なのです。

親子関係から離れて社会に出ると、真実を述べることが適切ではない場合も出てきます。人とうまく関わるためには頭に浮かんだことを口にするのを一拍待って、相手の気持ちを考えて行動を調整する力も必要になります。このような能力の発達が、子どものうその中に見られるのです。ここに相手を思いやる気持ちが加わると、「友達のために本当のことを言わない」「相手のために自分の本当の感情を隠す」ということもできるようになっていきます。

社会の中で生きていくための基本的な力は案外早くに身に付くのです。

鹿児島大学 教育学部
講師 島 義弘

【プロフィル】埼玉県出身。名古屋大学大学院修了。2012年鹿児島大学に着任。専門は発達心理学・パーソナリティ心理学。現在１歳児の子育て中。34歳